

琴線にふれる

3月3日(火) 5・6校時に遺愛講堂において、高2一般コースの国語選択授業で、『箏(こと)のレクチャーコンサート』がありました。講師は、函館を代表する箏(こと)演奏家の宮崎加奈古先生でした。

宮崎先生は函館音楽協会賞や「益田喜頓賞」などを受賞し、最近では、「ケイズクルー」(琴、キーボード、ギター、パーカッション、ベース、ドラムス)といった洋楽器とのコラボレーション活動で注目され、他の演奏家とは違う魅力を出しています。すでにアルバムを2枚出し、癒やされる曲にファンも多く「函館よりも、東京で暮らす人の方がよく知っているかも」というお話もあります。今回は、宮崎先生のお弟子であり、遺愛の国語講師・内藤伸子先生の御紹介で、レクチャーコンサートとなりました。

内藤先生の「琴線にふれる」とはどのようなことでしょうか?という問いかけからレクチャーが始まりました。最近では「琴線にふれる」を「怒りを買ってしまうこと」という意味合いで使う人が35.6パーセントもいるという結果(文化庁が発表した平成19年度「国語に関する世論調査」より)が出ているそうですが、本来の意味である「良いものや、素晴らしいものに触れて感銘を受けること」を実感した素晴らしいコンサートでした。



後半では、生徒の皆さんも直接、琴に触り、宮崎先生の手ほどきを受けていました。桃の節句に相応しいプログラムとなりました。

2015年3月3日(火)